



兵庫県

丹波市

市島町

JR丹波竹田駅



丹波竹田のAtoZ

駅から始まる地域の魅力発見AtoZシリーズ [JR丹波竹田駅編]



MESSAGE

駅から始まる地域の魅力発見AtoZシリーズ

〔JR丹波竹田駅編〕の編集にあたり、

多くの皆さまのご協力を得て

『丹波竹田のAtoZ』ができあがりました。

各地との交流拠点となる丹波竹田駅を起点として、

丹波竹田の里の見どころをまとめました。

ご来訪を心からお待ち申し上げております。

竹田小学校高学年の皆さまには、アンケートにご協力いただき竹田の里の魅力をあげていただきました。下の「祭りと山門」の絵は2017年、丹波竹田駅の正面の壁に見童たちも参加して作り上げ

たもので、人々の眼をたのませてくれています。子どもたちが古里への思いをいつまでも心に温めながら、大きく育っていつてくれることを願っています。



- Akechi Mitsuhide
A 明智光秀の丹波攻め・友政城跡
 Baseball
B 野球にける青春・スポーツピアいちじま
 Cherry Blossoms
C 桜・竹田川前木戸(さしど)橋の桜堤
 Daikan
D 代官依田家の菩提寺・成願寺
 Engishikinai-sha
E 延喜式内社・伊都伎神社
 Festival
F 祭・六社の御輿が勢揃いする丹波竹田祭
 Gakkou
G 学校・竹田小学校は明治7年に創立
 Haiku
H 俳句・高浜虚子の高弟、西山泊雲と野村泊月
 Ikkyujinja
I 一宮神社・丹波竹田祭六社の御旅所
 Jinjya-no-goshi
J 三つの神社が合祀・三宮神社
 Kyodonojin-no-kensyohi
K 郷土の偉人の顕彰碑・法楽寺
 Life
L 生命を育む里・源流域の豊かな自然
 Meisyu Kotsuzumi
M 銘酒小鼓・西山酒造場

- Nakai Gonji
N 中井権次一統の彫刻・中竹田加茂神社、一宮神社
 Onitaiji-densetsu
O 鬼退治伝説の寺・清菌寺
 Power spot
P パワースポット・磐座(いわくら)
 Quality
Q 質の高い文化財・二宮神社
 River
R 竹田川・「氷上回廊」として南北を繋ぐ
 Sekitei
S 石庭(重森三玲作「四神相応の庭」)・石像寺
 Tamba-Takeda-eki
T 丹波竹田駅・都会との交流の拠点
 Umikarakita
U 海から来た獅子狛犬・熊野神社と一宮神社
 Variety
V バラエティー豊かな文化財・中竹田加茂神社
 Wa
W 輪になって踊ろう・竹田おどり
 X
X 謎・戦国石仏群
 Yama
Y 高谷山・雲海が有名な竹田地区最高峰
 Zenkokunosakigake
Z 全国に先駆けた児童福祉・大野唯四郎



戦国時代、黒井城の前進陣地であった友政城。標高176mに築かれた掻き揚げ式山城の雰囲気が残っています。天正7年(1579)明智光秀の丹波攻めで落城しましたが、地元集落に常住していた家老の三谷牛右衛門友政は集落の発展に貢献し、その名をとって集落名は友政と名付けられました。

Akechi Mitsuhide

A 明智光秀の丹波攻め・友政城跡

夏の全国高等学校女子硬式野球選手権大会が行われるスポーツピアいちじまの“つかさグループいちじま球場”。令和元年は全国から32の高等学校女子硬式野球チームが丹波市に集い、7月26日から8月2日まで、青春をかけた熱い戦いを繰り広げ、栃木の作新学院が優勝しました。

Baseball

B 野球にける青春・スポーツピアいちじま

(つかさグループいちじま球場)

前木戸橋から広田橋にかけての竹田川右岸堤防には、見事な桜並木が見られます。春の訪れを楽しむ人々が三々五々集まって来ます。近くには江戸時代後期、湯長谷(ゆながや)藩(現福島県いわき市)の丹波飛地領で代官を務めた依田家の屋敷跡や菩提寺の成願寺もあります。

Cherry Blossoms

C 桜・竹田川、前木戸(さしど)橋の桜堤



D 代官依田家の菩提寺・成願寺

天和2年(1682)から明治4年(1871)の廃藩置県まで、下竹田村は湯長谷(ゆながや)藩(福島県いわき市)の丹波飛地領でした。ここ在地代官を務めたのが依田三郎右衛門為成から続く代々の依田家でした。成願寺はその依田一族の菩提寺として、寛政年間(1789~1800)に再建されました。

Daikan



E 延喜式内社・伊都伎神社

延喜式内社として古い格式を誇り、戦前までは郷社。神輿は京都上賀茂神社から譲渡されたものといわれています。麻呂子親王(聖徳太子の異父弟)が大江山の鬼退治を命じられて進軍した時、この神社の竹で旗竿を用意した話や峠で親王軍が足痛に襲われたとき神社に祈って治ったなどの伝承が残されています。

Enshikinai-sha



F 祭六社の神輿が勢揃いする丹波竹田祭

10月スポーツの日前日の日曜日(令和2年は10/11)に行われる丹波竹田祭には、上・中・下竹田地区の六社からお旅をしてきた神輿が一宮神社に集結し、勇壮な宮入を披露します。神輿を先導する奴振り、神事の主役稚児献饌、露天商や演芸大会、最後には各神社の奉納太鼓の競演もあります。

Festival



G 学校・竹田小学校は明治七年に創立

竹田小学校は明治7年5月、それまで医師で儒学者・中澤致一の私塾であった「集成舎」を「公立集成舎」とすることで誕生したのが始まりです。令和2年の今日まで146年に亘って、地域で育った多くの人々が学び、心の拠り所として大切に見守っています。

Gakkou



H 俳句・高浜虚子の高弟、西山泊雲と野村泊月

西山酒造場の三代目当主・西山泊雲(亮三)と弟の野村泊月(勇)は、俳人高浜虚子の高弟としてホトギス派を隆盛に導き、「丹波二泊」と称されました。泊雲は昭和19年に亡くなりましたが、虚子は翌年秋に竹田を訪れ、泊雲の追善会を催しました。その時の虚子親子の句が石像寺に句碑の庭として遺されています。

Haiku



I 一宮神社・丹波竹田祭六社の御旅所

一宮(いっきゅう)神社は中竹田大森に鎮座。丹波竹田祭には三竹田六社の神輿が集結する御旅所として賑わいます。現在の一宮神社の神輿は天保3年(1832)松尾大社末社の四之社から譲り受けました。本殿を守る笏谷石製(福井産)の獅子狛犬や中井権次一統が関わった宮彫刻など文化財も豊富です。

Ikkyujinja



J 三つの神社が合祀・三宮神社

明治44年、近隣の三つの神社〔高野(たかの)、日附(あこう)、九日(くにち)神社〕が合祀されて三宮神社が誕生。現在丹波竹田祭に用いられている神輿は、旧高野神社のもので、寺院型の珍しい形をした旧日附神社の神輿は三宮神社の神輿庫に、旧九日神社の神輿は市島民俗資料館に保存されています。

Jinja-no-goshi

K 郷土の偉人の顕彰碑・法楽寺

法楽寺の檀家であった二人の偉人。児童福祉の先覚者・大野唯四郎は「愛育堂」を設立し、明治維新の混乱期に孤児となった子供たちを全財産を投入して養育しました。国語教育の権威・芦田恵之助は、自由作文の綴り方教育を提唱して大きな影響を与えました。法楽寺には二人の顕彰碑が遺されています。

Kyodonoiijin-no-kensyohi

L 生命を育む里・源流域の豊かな自然

豊かな自然に恵まれた丹波竹田の里。由良川源流域の山郷には清々しい空気が流れ、美味しい地酒が醸し出され、お米、野菜、栗、柿など、数々の味覚が育まれます。是非一度、丹波竹田の里を訪れて、生命を育む豊かな自然の中に身を置いて、心身をリフレッシュしてみてください。

Life

M 銘酒小鼓・西山酒造場

西山酒造場は嘉永2年(1849)の創業。竹田の里の良い水に恵まれ、美味しい地酒を造り続けてきました。「小鼓」は三代目社長・西山泊雲の俳句の師匠でもあった高浜虚子によって命名されました。西山酒造場の建物群は、国の有形登録文化財及び県の景観形成重要建造物にも指定されています。

Meisyu Kotsuzumi

N 中井権次一統の彫刻・中竹田加茂神社、一宮神社

江戸時代後期から大正時代にかけて、水上郡柏原町を拠点に、多くの寺社彫刻を手掛けた中井権次一統の優れた作品が、竹田の里にもあります。中竹田加茂神社の龍を始めとする彫刻は明治35年、八代目中井権次正胤の手によるもの。また一宮神社本殿彫刻には五代目中井丈五郎正忠が関わった記録が遺っています。

Nakai Gonji

O 鬼退治伝説の寺・清園寺

清園寺には聖徳太子の異父弟・麻呂子親王が大江山の鬼退治を命じられ、兵1万を率いて進軍の途中、この地で7体の薬師如来を彫り、戦勝を祈願したところ、首尾よく目的を果たすことができた、という伝承があります。清園寺には、それを語り継ぐ「絵巻物」や「絵馬」が遺されています。

Onitaiji-densetsu



P パワースポット・磐座（いわくら）

石像寺裏山には、ひときわ目を引く高さ12m、幅20mに及ぶ巨石群の「磐座」があります。古代の人々は神の依代（よりしろ）として信仰し、655年に法道仙人はこの麓に石像寺を開基しました。屹立する「磐座」は竹田の里のパワースポットともなっています。石像寺から「磐座」までは約10分。豪雨災害の影響で荒れ道ではありますが、気を付けてお登り下さい。

Power spot

Q 質の高い文化財・二宮神社

二宮神社には数々の優れた文化財が伝えられています。現在の神輿は弘化2年(1845)、松尾大社の摂社・宗像神社から譲られたものですが、この神輿には木彫りの獅子狛犬が乗っています。参道には和泉石製の、和泉石工の手になる獅子狛犬と優美な燈籠も。神殿脇を守る愛嬌のある獅子狛犬は珍しい瓦製です。

Quality

R 竹田川・「氷上回廊」として南北を繋ぐ

由良川源流域の水を集めてゆったりと流れる竹田川。上流の黒井川に入って、JR石生駅近くにある「水分れ」は、本州一低い中央分水界(95m)であり、由良川～竹田川～「水分れ」～加古川をつなぐ水路は、「氷上回廊」と呼ばれて古代から地域、文化、自然の重要な南北交流の役目を果たしてきました。

River

S 石庭（重森三玲作「四神相応の庭」）・石像寺

石像寺の石庭“四神相応の庭”は、裏山の磐座から発想を得た昭和を代表する作庭家・重森三玲によって、昭和47年に創られました。四神とは、四方を守る神獣とされ、東に青龍、南に朱雀、西に白虎、北に玄武が中央を向合う形で配置されています。重森三玲のモットーは「永遠のモダン」でした。

Sekitei

T 丹波竹田駅・都会との交流の拠点

明治32年7月、阪鶴鉄道として大阪～福知山間が開通し、丹波竹田駅ができました。当時は村の人々が 弁当持参で“陸蒸気”の見物に集まったそうです。ここから竹田村も大都市との交流や経済活動が盛んになっていきました。今や再び、都会に近い田舎として、鉄道の役割が見直されるときがきています。

Tamba-Takeda-eki

U 海から来た獅子狛犬・熊野神社と二宮神社

福井市の足羽山（あすわやま）からは、笈谷石（しやくだにいし）という青石が産出し、獅子狛犬にも加工されました。それらは三国湊から北回り船によって全国に運ばれましたが、由良湊から高瀬舟に積み替えて由良川で福知山へ、そして熊野神社や一宮神社にもやってきました。

Umikarakita



地域おこしの拠点

竹田 コミュニティー センター (竹田コミセン)

竹田コミュニティーセンターは竹田小学校の向かいに位置し、昭和54年に新築されました。竹田地区自治振興会の活動拠点として、さまざまな情報の発信、会議、講演会、趣味の会など多くの地区民に利用されています。館内は多目的ホール、大・小会議室、和室、歴史資料室などが整備されています。



V バラエティー豊かな文化財・中竹田加茂神社

社殿を守る獅子狛犬は、獅子が玉取り、狛犬が子取りの秀作で、綿貫重吉の作。拝殿奥には、青の背景に白く加茂神社という文字を浮き出させた鮮やかな扁額が掲げられています。これは鏝絵(こてえ)の名工尾松喜代蔵の手になるもの。本殿には龍を始め数々の神獣が彫刻されており、これらは中井権次正胤の力作です。

Variety

W 輪になって踊ろう・竹田おどり

竹田おどりは珍しい男踊りの振り付けで、竹田地区各集落の特徴を盛り込んで歌われ、市民運動会や竹田ふれあいまつりなどではみんなで輪になって踊ります。竹田おどり保存会の皆さんが正統な踊りの伝承に取り組んでおり、写真はライフピアいちじま大ホールにおける芸能発表会でのステージ風景です。

Wa

X 謎・戦国石仏群

高坂公民館の前に円応地藏尊という祠があります。高坂城跡に17体の石仏がありましたが、円応教の方が靈感を得てさらに14体が発見され、計31体の仏様をここにお祀りしたものです。一方、古文書に「高坂城で黒井城主荻野直正に逆心した36人を誅した」という記録があり、史実と推定できそうです。

X

Y 高谷山・雲海が有名な竹田地区最高峰

高谷山(こうだにやま)は443mの地域最高峰で、地域のシンボルともなっています。今は頂上まで車道が整備され、下竹田二宮神社から15分程で頂上に立つことができますが、くれぐれも安全運転をお願いします。秋から冬にかけて、霧が発生した日には、幻想的な雲海を楽しむことができます。

Yama

Z 全国に先駆けた児童福祉・大野唯四郎

大野唯四郎は明治維新の混乱期に、孤児となった子供たちを救済し養育するため、家の財産を全て投げ打ち、児童福祉事業に命を捧げました。明治12年には兵庫県知事の許可を得て、自宅を改修した「丹波愛育堂」が創設されました。地元ではその精神を尊び、「愛育の里」として語り継いでいます。

Zenkokunosakigake



児童福祉の先覚者

大野 唯四郎

天保10年～明治17年
享年45歳

幕末維新の動乱期、無知や貧困から捨て子や孤児が増える状況を見かねた唯四郎は、家産の全てを投げ打って孤児の救済、養育事業を実践していきます。全国に先駆けて、明治12年には県公認の「愛育堂」が設立され28人の孤児たちを養育していくことになりました。

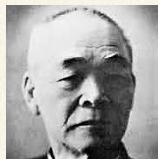


竹田村、学校教育の祖

中澤 致一

嘉永元年～明治15年
享年35歳

致一は医業のかたわら、自宅に「集成舎」という私塾を開いて近隣の子弟を教育していましたが、これが明治7年5月、国の学校教育制度を受けた「公立集成舎」となり、現在の竹田小学校の前身となりました。その時致一は首席教員を務めています。

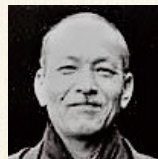


国語教育の権威

芦田 恵之助

明治6年～昭和26年
享年79歳

樽井の小笠原家に生まれ、た恵之助は、福知山の芦田家の養子となります。東京高等師範学校に奉職して、国文法作文指導の研究に専念し、34歳のとき「随意選題」による綴り方教育を提唱し、実践指導しました。晩年は法楽寺に寓居し、『恵雨自伝』を執筆しました。



日本文学史にのこる俳人

西山 泊雲

明治10年～昭和19年
享年68歳

泊雲（本名亮三）は西山酒造場の三代目当主。明治35年、新聞に載った正岡子規の辞世の句を見て感動し、このような傾向の俳句を学びたい、と実弟の西山勇（後の野村泊月）と共に、その頃子規の松山中学校の後輩で文芸誌『ホトギス』を主宰していた高浜虚子の門下生となりました。やがて虚子の高弟として『ホトギス』の選者となり、虚子俳句の解釈も連載しています。泊雲のもとには多くの文人墨客が訪れて、丹波竹田の地は全国の俳人や文化人の間に広く知れ渡りました。



野村泊月
（実弟）



日本排球協会会長・日商岩井（現双日）社長

西川 政一

明治32年～昭和61年
享年87歳

竹田小学校高等科卒業と同時に神戸の鈴木商店に入社し、総支配人西川文蔵氏の援助を得て、神戸高商（現神戸大）を卒業しました。昭和2年西川家の養子として明子夫人と結婚しましたが、その年鈴木商店が倒産。翌年、旧鈴木商店の幹部たちによって設立された日商（株）に参加して昭和33年には社長に就任し、昭和43年には日商岩井（株）を誕生させ初代社長を務めました。一方、昭和23年には日本バレーボール協会会長に就任し、昭和39年の東京五輪では“東洋の魔女”の金メダルを自らの手で授与しています。

丹波竹田 見どころマップ

駅からの所要時間(徒歩)



丹波竹田のAtoZ 駅から始まる地域の魅力発見AtoZシリーズ [JR丹波竹田駅編]

発行日 2020年3月20日

制作 竹田地区自治振興会(竹田コミュニティセンター tel.0795-86-0004)

669-4302 兵庫県丹波市市島町中竹田1637-1

竹田歴史資料室 青木正文

協力 全国高等学校女子硬式野球連盟(写真提供)

竹田小学校高学年児童の皆さん

ディスカバー市島(観光ボランティアガイド)

福知山公立大学特任准教授 塩見直紀

本作品はJR西日本福知山支社地域連携推進室と福知山公立大学の研究連携で発行したものです。